

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月10日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	ハイレベルな文武 両道により、高い 学力と豊かな人間 性を育む。	①普通科・スポーツ科学科の教育課程に基づき教育の充実を図り、習熟度別学習を有効に活用して学力の向上を図る。 ②生徒主体の生徒会活動・行事運営を行う。	①普通科では、国数英の授業を充実させる。スポーツ科学科では、国数英以外に専門的な内容の授業も充実させる。 ①豊かなスポーツライフの実現に向けて、日常的にスポーツに親しみ体力向上、健康増進に取り組む態度を育成する。 ①数学、英語において習熟度別学習を活用した授業を充実させる。 ②生徒会役員などへ働きかけを密に行い、主体的な運営ができるよう支援する。	①教育課程に基づき、充実した授業が実施できたか。 ①豊かなスポーツライフの実現に向けて、日常的にスポーツに親しみ体力向上、健康増進に取り組む態度を育成できたか。 ①習熟度を生かした授業展開ができたか。 ②前年度より生徒主体の活動・行事運営がなされたか。	①コロナ禍の中、十分に授業が実施できない時期もあったが、全体的には教育課程に基づき授業が実施できた。スポーツ科学科では専門的な内容の教育課程を実施することができた。 ①豊かなスポーツライフの実現に向けて、テニスや持久走等日常的にスポーツに親しみ、体力向上、健康増進に取り組む態度を授業で育成した。 ①習熟度を生かした授業展開ができた。 ②感染症対策を講じながら、体育祭で生徒が進行するなど生徒主体の学校行事を行うことができた。	①将来の目標を持たせつつ、日々の課題や週末課題を課すことによって、毎日の授業を充実させ、さらに家庭学習の定着を図る。 ①豊かなスポーツライフの実現に向けて、日常的なスポーツに親しみ、体力向上、健康増進に取り組む態度を授業で継続して育成していくこと。 ①外部教材を導入することにより、習熟度別学習の利点を生かし、生徒一人一人の進度に合わせた授業を展開し授業のさらなる充実を図る。 ②事前に生徒と打ち合わせを行い、生徒自らが自主的に進行をするなど、生徒だけで運営できる場面を増やし、各行事を活発にしていきたい。	①新型コロナウイルスの影響であらゆる活動が制限される中で目標達成に向けて取り組みができていたことが評価できる。 ①コロナ禍でリスクの高いスポーツもあるが、文武両道は本校の強みであるので、習熟度別授業の充実と併せて取り組みを継続することが大切である。 ①一人ひとりの進度に合わせた授業展開は教材の取り入れ方等に工夫が必要だが、生徒が安心して学び進めるためには大切なことである。 ②今後もコロナ禍での行事開催は続くことが予想されるので、生徒自身が感染防止対策をしっかりと意識したうえで自発的な活動ができるようにすることが大切である。 ②現在の若者の活躍は素晴らしい。受け身ではなく、何事にも主体性を持つことが、生徒にとって将来に繋がる重要な要因である。教育活動の様々な場面で北高生の自治力向上につながるような支援が必要である。	①学習に対する意識が向上してきているが、家庭学習の定着についてはまだまだ課題が残る。 ①豊かなスポーツライフの実現に向けて、テニスや持久走等日常的にスポーツに親しみ、体力向上、健康増進に取り組む態度を授業で育成したが継続することが課題である。 ②感染症対策を講じながら、体育祭で生徒が進行するなど生徒主体の学校行事を行うことができたので、今後は生徒が活躍できる場面を増やすことが課題である。	①さらなる学力向上を目指し、各教科で適宜課題を課すなど、家庭学習時間を確保できるように工夫をするとともに、外部教材の導入による利点を生かしさらなる充実を図る。 ①豊かなスポーツライフの実現に向けて、日常的なスポーツに親しみ、体力向上、健康増進に取り組む態度を授業で継続して育成していくこと。 ②生徒会本部役員や各委員会委員長などがリーダーシップを発揮できるよう働きかけ、生徒主体の行事運営を増やす。
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	部活動や行事に 主体的に取り組 み、自己肯定感を 育むとともに、規 律正しい生活を送 る校風を維持す る。	①規律正しく、安心安全な学校生活を維持できるように指導支援する。 ②部活動における、生徒の自主性・協調性、人間性の育成をする。	①交通安全教育を中心に、日常生活におけるルールやマナーについて指導する。 ①教員間の情報共有を密にし、スクールカウンセラーとも連携することで、きめ細やかな支援を行う。 ②部活動入部率70%以上を目標に入部率の向上に努める。	①交通事故件数が昨年度より減ったか。 ①ケース会議の実施回数、スクールカウンセラー相談件数が昨年度より増えたか。 ②入部率70%以上を達成できたか。	①コロナ禍で分散登校期間もあり、正確な統計を取ることができなかった。大きな事故やけがは起こらなかった。スケアードストレートを実施し、事故に関してリアリティのある内容を体験することができた。地区交通安全大会で、交通安全に関して研究し、研究内容を全校生徒に発表しフィードバックすることができた。 ①教員間の連携がスムーズに行われ、丁寧な対応をすることで、ケース会議は昨年度より減った。カウンセラー利用件数は52件で21件増加した。 ②入部率63%で、目標には達成することはできなかった。	①教員からの呼びかけだけでなく、生徒とも協力して注意を喚起する。 ①教員、生徒、保護者への情報提供を定期的に行っていく。また、情報共有を密にして、それぞれが連携して生徒支援を行っていく。外部機関とも連携し、きめ細やかな対応を実施していく。 ②部活動の意義を生徒に伝えていく。今後部活動紹介などを通して加入率を上げていくなどに加え新たな手立てを検討していく必要がある。入部している生徒へは継続して指導し、部活動を通し人間性を育成していく。	①スケアードストレートの実施等、効果的な取り組みが行われていることは評価できるが、自転車や公共の乗り物の乗車マナーに対して、生徒の認識が足りない場面があると感じる。「北高生」と一括りにされるので、さらなる指導が必要である。 ①朝、登校指導をしていると北高の生徒はよく挨拶をしてくれ、礼儀正しい態度に感心させられる。小学生の良い手本になる。 ①スクールカウンセラーの利用件数の増加は懸念するが、活用されていることは良いことである。 ②目標の入部率に届かなかったものの、昨年度より5%上昇したことは評価できる。引き続き部活動の意義を発信し、with コロナでの部活動の充実を期待する。 ②入部しない生徒の背景にも着目する必要がある。	①スケアードストレートの実施や、生徒による地区交通安全大会で実施した研究内容を全校生徒に対し発表することで、注意喚起できたが、自転車や公共交通機関の乗車マナーに対して、まだ認識が低く引き続き指導が必要である。一方で、挨拶をよくできる等、良い面は引き続き伸ばす。 ①様々な課題を抱える生徒が多くいるが、教員間やスクールカウンセラーとの連携がスムーズにできたことで、きめ細やかな対応ができた。引き続き、関係者と連携し、より丁寧な対応ができる体制づくりが課題である。 ②入部率の向上につながるよう、誰もが参加できる部活動の支援が必要である。	①教員からの指導だけでなく、生徒会役員や部活動と連携して生徒同士で注意を呼び掛ける体制づくりを進めていく。 ①学年会や職員会議での生徒情報を共有することや、スクールカウンセラーや外部機関の利用、生徒支援の方法などの情報提供を積極的に行っていく。 ②部活動の意義を生徒に伝えていく。学校説明会等でのPRも積極的に行えるようにしたい。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月10日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	目標を持ち努力し続けることで一つ上の進路実現を目指す生徒を育てる。	①個々の目標を定める機会となる効果的な指導を行う。 ②生徒のニーズに合った進路実現を目指す。	①進路指導室の資料・教材等をさらに充実していく。 ①生徒のニーズに合わせてガイダンスの内容を調整する。 ②様々な選択肢を提供し個々のニーズに合った情報を提供する。	①進路指導室の資料・教材が充実したか。 ①生徒のニーズに合ったガイダンスを提供できたか。(卒業前のアンケート) ②個々の進路目標に合った情報を提供できたか。	①大学入学共通テスト過去問を中心に赤本等を充実させた。 ①コロナ禍ではあるが全てのガイダンスを生徒のニーズに合わせて全て実施できた。卒業前のアンケートでは87パーセントの生徒がきめ細かなガイダンスを受けられたと感じている。 ②生徒の疑問には迅速な対応を行った。 ②帝京大学に直接交渉して指定校推薦枠を1つ増やすことができた。	①リクルートが提供するオンライン教材等を活用し自学自習の習慣をつけさせていく。 ②新入生の学習サポートをベネッセからリクルートに変更したのを機会に、より本校の生徒に適したサポートをしてくれる業者を見極めていく。	①オンライン教材の活用を継続する。 ①生徒の思いをしっかりと捉え、生徒に寄り添い、様々な選択肢を持てる進路指導を期待する。 ①進学に限らず、生徒の特性を見極めてのキャリア教育が大切である。 ②生徒のニーズに幅広く合わせた対応と指定校推薦枠の拡充が評価できる。 ②指定校推薦枠が増えることは学校としての強みになる。	①総合型選抜を含む推薦入試では例年並みの合格者を出すことができた反面、一般入試に挑戦する生徒の数が減少している。 ①就職希望者の数も横ばいであるが、概ね希望する業種に就職することができた。公務員希望者については基礎学力をつけさせていく必要がある。 ②幅広いニーズにできるだけ対応した進路ガイダンスを実施することができた。	①生徒の希望する進路実現のために、様々な学習機会を提供・紹介する。 ①一般入試・公務員試験で合格させるために、早期からの計画的な学習指導を行う。 ②業者のサービス等を利用し、迅速かつ正確な情報提供を行う。 ②総合型選抜や公募制推薦で実績を残し、将来的には指定校推薦枠を増やしてもらえるように働きかけを続ける。
4	地域等との協働	地域の教育力を積極的に活用する。	①生徒の学習意欲や進路意識を高められるような高大連携教育を推進する。 ②部活動を通して地域とともにある学校づくりを進める。	①大学のノウハウを参考にし、新たな生活様式の中にあっても実施できる高大連携プログラムを検討する。 ②感染拡大防止対策をとった上で、新たな生活様式の中でも部活動と地域で連携できる事業を検討する。	①大学のノウハウを参考にし、コロナ禍においても、これまで培ってきた高大連携教育が実施できたか。 ②感染拡大防止対策をとった上で、新たな方法で部活動と地域の連携事業が実施できたか。	①神奈川工科大学が実施したサマースクールに参加することができた。 ②小中学生の指導を直接行うことはできなかったが、地域の広報誌に生徒が原稿を寄せることができた。 ②実施を断念する地域のイベントも多く、新たな方法での連携はあまり実現できなかった。	①新型コロナウイルスに配慮しながらも、生徒の学習意欲や進路意識を高められるような高大連携教育は計画する必要がある。 ②感染拡大防止対策をとる以上、直接の指導は厳しいかもしれないが、部活動と地域の連携事業が継続できるよう検討していく。	①コロナ禍でも尽力していることを評価する。 ②ここ数年具体的な取り組みが中止になったり、十分でなかったりしたが、学校と地域との繋がりは相互に有益であるので、特色として継続するべきである。 ②大会の中止など成果を披露する機会がなく、生徒のモチベーションの維持やメンタルへの影響が懸念される。引き続き新しい形での連携が必要である。 ②地域との連携が途切れることがないよう工夫が必要である。	①大学のサマースクールに参加できたことにより、これまで培ってきた高大連携教育が部分的ではあるが復活した。 ①今後も新型コロナウイルスに配慮しつつ、できる限りの連携教育を計画することが課題である。 ②部活動と地域とのつながりは、形を変えながらも継続できた。 ②部活動と地域とのつながりが途切れないようにすることが課題である。	①新型コロナウイルスに配慮しながらも、生徒の学習意欲や進路意識を高められるような高大連携教育を計画する。 ②感染拡大防止対策を講じた部活動と地域の連携事業が継続できるよう検討していく。
5	学校管理 学校運営	①生徒第一に安心安全かつ快適な教育環境整備を進める。 ②風通しの良い職場環境づくりを行い、対応力のある学校運営を目指す。	①ICTにより学校と家庭を連携した学習環境を整える。 ②風通しの良い職場環境づくりを行い、対応力のある学校運営を目指す。	①日常での学習にICTを効率よく活用できるようにする。 ②ITの活用や、アイデアの共有などにより仕事を効率的に行い、職員間の連携を緊密にして、様々な課題に柔軟かつスピーディに対応する。	①日常での学習にICTを効率よく活用できたか。(生徒・職員アンケート) ②ITの活用とアイデアの共有で仕事が効率的にできたか。(勤務時間管理システム)様々な課題に柔軟かつスピーディに対応できたか。	①日常での学習にICTを効率よく活用できるようにクロームブックやWi-Fiの環境を整備した。 ①95%の生徒が1回以上クロームブックを使用した。 ①48%の生徒がWi-Fiは使いやすく、授業でICTを活用できたと感じている。 ②共有フォルダをTeamsに移行し、効率よく活用できるようにした。 ②マークシートを使用した採点ができる機材を導入し、業務の効率化を図った。 *勤務時間管理システムは利用することができないものであった。	①来年度の新入生から、1人1台端末制度が導入されるので、スムーズに移行できるようにすること。来年度に向け教材の作成等検討する。 ①職員については、継続してICTの研修を実施し、生徒については、活用できた実感上げることが重要。 ①ITの活用とアイデアの共有については、Teamsに移行することができたので、それをさらに活用すること。 ②Teamsを活用して情報共有を図ることやマークシート活用のため段階的に利用方法を検討する。	①高度情報化社会に対応できる力を身につけることが求められている。高校でのICTを活用した学びを充実させ、よりよい教育環境を整えることが重要である。 ①小学校でも一人一台端末を活用した学習が始まった。リモートで北高生徒との交流なども考えられるのではないかと。 ①「学校に通うことが楽しい」と感じられる生徒を一人でも多く増やすことが必要である。 ②いじめ問題は「当校にも当然ある」という視点に立って、弱者を孤立させず、誰一人取り残すことなく卒業させられるような、明るく風通しのよい学校運営が求められる。	①ICTのためのWi-Fiの環境整備は充実してきた。一人一台端末を活用した教材の作成等が課題である。 ②マークシート等の機材は購入できたので、業務の改善や、授業改善にITやマークシートを活用する方法を検討する。 ①ICTに関する研修を継続する。 ①各教科でICTを活用した教材を研究し、生徒のICT活用実感をあげる。 ②マークシートやラジオボタンなどを活用して、授業の知識習得方法のバリエーションを増やす。 ②ITの活用により採点や調査アンケートの集計などを効率よく行い、生徒とコミュニケーションをとる時間を増やす。 ②生徒一人一人を気にかけて、教員、保護者、スクールカウンセラーや外部機関で連携を密にし、丁寧な対応ができる体制を作る。	